

どがなかな 大田市です

Contents

- 2-3P 中村ブレイス(株) 定住を支える企業を紹介します
- 4P 上野屋蒲鉾店 ~いつもの味がココにある~
- 5P ㈱フィールテクノロジー “おおだ”への熱い想い
- 6-7P “おおだ”の新しい魅力!!
三瓶バーガー/石見銀山WAON/仙ノ山遊歩道
- 8P 定住推進員を配置しました
シリーズ新石見銀山⑫
- 9P 定住推進員だより Vol.1
中山大介さん、山田良子さん
- 10-11P おおだ情報BOX
- 12P ふるさとは今(冠岩)/学校紹介(大代小学校)



大代小学校校歌

木島俊太郎 作詞
森山 俊雄 作曲

一. のぼる朝日に かがやいて

大江高山 雲と呼ぶ

希望のつばさ 羽ばたかせ

通えばうれしい 大代校

学ばよわれら むつまじく

二. 流れさやかな 八反田

水の歌ごえ ききなから

心とみがき 身とまたえ

励めばたのしい 大代校

育つよわれら すこやかに

三. あめのよる日も かげの目も

ひとみ純らに 澄みながら

伸びゆく子らの 行道語

歌えば明るい 大代校

追まよわれら 手をとりて

大田市ふるさと情報誌

VOL.12

2009.6

定住を支える企業を紹介します

中村ブレイス株式会社（大森町）



中村ブレイス株式会社 中村俊郎社長

世界遺産のまち大森

シルバーラッシュに沸いた江戸時代初期には、周辺を含めて20万人もの人が住んでいたといわれる大森町。では、現在の人口は？というと、約410人。往時のわずか0・2%に過ぎません。世界遺産登録で脚光を浴びる陰で、少子・高齢化が進み、今なお人口減少が進みつつあります。

中村ブレイスと定住支援

このような状況の中、大森町に本拠を置く義肢・装具や人工乳房などを製作する中村ブレイス株式会社（中村俊郎社長）では、「世界遺産のまちを盛り上げた

い」と会社を挙げて定住支援に力を注いでいます。

従業員で大森町に定住している方は、家族を含めると32人。中には都会地からIターンで就職した方もおられます。

惹きつけられた人達

上村真さん(34歳)は広島県出身。島根大学在学中に

「過疎地にあっても着実に伸びている会社」と魅力を感じて入社を決意しました。パート職で妻の亜子さん(34歳)も愛知県出身。学生時代から交際のあった真さんの思いを受け入れ、大森に住んで11年、今では三人のお子さんが大森小学校と大森幼稚園に通っています。入社一年目の松山愛さん(32歳)は大阪府の出身。



上村 真さん
かみむらまこと
亜子さん



入社の動機は？と聞くと「田舎でも新しいことにどんどん挑戦していくところに惹かれました」と笑顔。

大田市に就職を決めた時はご両親も驚かれたそうですが、会社の内容を聞いて逆に応援してくれたのだそうです。「地元の方々がとてもやさしく接してください、自然がいっぱいいい感じにいます」と語ってくれました。



松山 愛さん

彼らに共通するのは「遠く離れた島根県の過疎地であつても中村ブレイスで働きたい」という強い思い。何が彼らをそういう思いにさせたのでしょうか。

人・地域を支える

中村社長が大森町で創業されたのは昭和49年。「大森を、広く人を集められるような、人に喜んでもらえるような町にしたい。だから大森を拠点にして、世界中の人に喜んでもらえるようなものを作りたい」という創業当時の大きな夢。

その夢を抱きながら、まだ世界遺産登録の話もない中、過疎化が進みつつある大森町で創業するという、現実の厳しさと向き合わなければなりません。

徐々に信頼を得て、業績を上げ、現在では毎年3人程度の採用を続け、従業員65人を抱える企業へ成長を遂げました。

創業から35年の時がたち、石見銀山が世界遺産登録され、今では全国から多くの人々が大森の町を訪れるようになってきました。しかし、大森の町の現状は、冒頭のとおり、少子・高齢化が進

んでいます。

中村社長は「若者たちを育てながら地域を支えていきたい。若い人たちが住んでくれることが地域の一歩のパワーになるんです。もし若い人がお子さんと5人くらいで大森に住んでいただけなら、住むところを格安でご提供しますよ」と話をされました。町内に、独身向けの「さくら寮」や社宅を保有されており、地域にパワーをいただけるなら、社員以外の方でも大森に住んでいただきたい、というご提案もいただきました。ブレイス(Brace)とは、



日本のみならず、世界から認められる高い技術を持つ。義手義足、治療用・リハビリテーション用装具、乳癌術後補正用人工乳房、人工肛門等の製造販売を行う。2006年元気なモノ作り中小企業300社に選定される。

中村ブレイス株式会社

大田市大森町ハ132
☎ 0854-89-0231
ホームページ：
<http://www.nakamura-brace.co.jp/>

空想の翼で駆ける

会社の前にある石碑には、「空想の翼で駆け現実の山野を往かん」と書かれています。

この言葉は作家の松本清張氏が昭和60年に大森を訪れた際、過疎地にありながら義手義足作りに励む若者

の姿を見て、贈られた言葉だそうです。

大きな夢が一步一步現実となっていく今、大森のまちに若者が集い、人口増加に転じるのはそう遠い日ではないかもしれません。



上野屋蒲鉾店

いつもの味が「ム」にある



土江 元生 さん

家業を継いで 和江蒲鉾を作り続ける

「和江のストかま」といえば皆さんも帰省された際に、お土産として買われる方も多いのではないのでしょうか。

その中で、「すまき 和江の光」で第61回全国蒲鉾品評会の水産庁長官賞を受賞した上野屋蒲鉾店の工場長、土江元生さん（34歳）にスポットを当ててみました。

三人兄弟の末っ子で、家業を継ぐ気はなく、高校を卒業してから大阪の専門学校へ進学されました。卒業後、そのまま3年間はアルバイト暮らし。

都会での生活に疑問と不安を感じ、3年目にUターンを決意

します。

とは言え、最初はやむなく家業の蒲鉾作りを手伝っていました。はじめて自分で作るようになったのは、それから2〜3年後ぐらいのこと。

その頃から蒲鉾作りとともに、地域での活動が面白くなってきたのだそうです。

中でも「トラハゼの会」の活動が彼を一層やる気にさせました。この会は、地域特産資源のトラハゼを最大限に生かした新製品作りを目指し、和江地区の蒲鉾製造業者で結成しました。

この会では、農林水産大臣賞を何度も受賞した高知県の蒲鉾製造業者を訪ねたり、時にはこちらに招いたりして、蒲鉾を一緒に作ったそうです。こうした活動で徐々に「蒲鉾作り」への意識が高まっていきました。

Uターンしてから今年で9年目。「大阪にいた時より、今のほうが断然充実しています。田舎はやる気をもって行動すると注目されるし、協力してもらえらる」「小さな町だからこそ、横のネットワークが強いし、やれば響くのがいい」と土江さんは語ります。

目標は、安定した商品を作り続けること。当初からその思いに変わりはありません。気温の違いで品質にちよつとした波があるのでそうです。未だに毎日同じものを作るのは難しいと言います。

以前は、毎日の作業日誌に頼って蒲鉾作りをしていた土江さんも、今は経験による感覚を駆使しながら、塩や氷をいれるタイミングを図るようになったそうです。

「対面販売では、お客さんの声が直接聞けます。食品のものは、良くも悪くもそれがすぐに伝わってきます。評価されるのが面白いです」と、より良い「蒲鉾」を作るため、お客さんの声を大切にしています。

もし家業を継いでいなかったら？と尋ねると、「おそらく上野屋蒲鉾店はもう営業してないと思います」という答えが返ってきました。

「華やかさよりも安定したものの。そして地魚を使った和江の名前がでるものを作り続けたい」と意欲的に話してくれました。

和江の蒲鉾は、4社全てが「おだブランド」に認証されています。そして全国でも高い評価を受けているのは、和江で作っているという誇りが受け継がれているからではないでしょうか。

この思いがある限り、今日もまた昨日と同じ美味しい和江の蒲鉾が皆さんにお届けされるはずですよ。



第61回全国蒲鉾品評会の水産庁長官賞を受賞した「すまき和江の光」をはじめ「わかめかまぼこ」「のやき」「天ぷら」などの商品を製造販売

上野屋蒲鉾店

大田市静間町311-1
☎0854-84-8121
<http://www.e-sutokama.com/index.html>

“おおだ”を拠点に世界へ

(株)フィールテクノロジー

“おおだ”への熱い思い



左から 佐々木さん、塩浦さん、元井さん

(株)フィールテクノロジー(三谷明彦代表取締役・従業員11名)は平成14年2月に設立されて以来、氷感技術の研究と開発を進めました。現在では氷感技術は多くのマスコミに取り上げられ、経済産業省が実施・主催する

2009年元気なモノ作り中小企業300社「日本のイノベーションを支えるモノ作り中小企業」部門に選定されました。その技術を支え、世界へ送り出しているのが三谷社長の下に集まった従業員の皆さんです。

引き寄せられた3人

「島根に来たこともなかったけど、三谷社長の人柄に引き込まれた」そう語るのは入社して一年半の塩浦龍さん(29歳)。もともと塩浦さんは鹿児島市内で働いていました。しかし、三谷社長と塩浦さんのお父さんが知り合いだったことが縁で、(株)フィールテクノロジーのホームページを見たり話を聞くうちに、魅力を感じ大田へイターン。「大田へ来たおかげで世界へ向けた仕事、一つしかない仕事ができる」と語る塩浦さん。その目は燃えています。

鳥取市から大田市へイターンされた元井大輔さん(28歳)に入社したきっかけを尋ねると「大学院で農業の研究をしていて、農業に役立つ仕事を探していたらホームページで見つけま

した。面白そうなので会社へ押しかけてぜひこの仕事をやらせてください、と社長へ直談判した」とのこと。大田での生活は、施設についてはちよつと不便だけれど、近所の方は優しく、子どもを育てるにはいい環境だそうです。「島根でこんなすごいことをやってるんだと言われると嬉しい」と笑顔で語ってくれました。

社長と20数年来の友人だという江津市在住の佐々木正通さん(52歳)はちょうど取材の日が入社初日。それまである企業に勤めていましたが、社長の人間性に惹かれ、この会社で働くことを決意されたそうです。「働ける限り働いて恩返しをしたい」と決意を新たに語ってくれました。

Uターンを希望されている方へ

塩浦さんは「夢があれば場所はどこでもいい。自分で自分を变えてやるという気持ちが大切」。「何もないからやるのがたらくさんある。メカニズムが分からないところに夢を感じる。未完成のものを扱う面白さがある」

と元井さん。
佐々木さんは「地方にいることによる弊害は感じない」とアドバイスをくれました。

社長をはじめとして、“おおだ”への熱い思いを持つ従業員皆さんのこれまで以上の活躍が期待されます。



冷蔵機器のベンチャー企業。食材を凍らさずに長期保存ができる画期的な保存装置「氷感庫」を開発、販売。氷感技術は食品関係だけでなく、医療分野でも期待されている。世界へ羽ばたくオンリーワン企業。

(株)フィールテクノロジー Feel Technology Co.,Ltd.

大田市久手町波根西750-7 / ☎0854-84-0315
ホームページ <http://www.feel-tech.jp/>

新しい魅力!!

ほおばれ! 三瓶バーガー



三瓶バーガー 600円

三瓶山北の原で皆さんに親しまれてきた「三瓶こもれび館」がこの春、「SANBE BURGER」(吉田美術清泉庵・代表 吉田真由美)としてリニューアルオープンしました。

個性豊かなハンバーガーが楽しめるほか、愛犬同伴の方も安心なドッグカフェを併設し、ペット用リゾットもメニューとして用意しています。

ここで味わえるのが当地バーガー「三瓶バーガー」。大田市内の製パン工場で作



られたパンズ(パン)、島根県産牛と豚の肉を使用したハンバーグ、大田市産の新鮮なトマトやレタス、それに三瓶山の澄んだ空気を挟みこみ、丁寧に仕上げただわりのハンバーガーです。

メニューはスタンダードな「三瓶バーガー」や地元三瓶のわさび漬けを加えた「三瓶わさびバーガー」など7種類。また地元牧場の牛乳を使った「三瓶牧場しぼりたてホットミルク」や「ハンバーグランチ」などもあり、三瓶の新たなブランドとして人気となっています。近くにお越しの際は、大きな三瓶バーガーをほお

ばってみてはいかがでしょうか？

問い合わせ 三瓶バーガー
営業時間 10時から17時
定休日 火曜日
TEL: 0854-86-0200
FAX: 0854-86-0336
HP: <http://www.sanbe-bg.com/index.html>

石見銀山 WAON 誕生

大田市観光協会とジャスコ・サティなどのスーパーを営むイオン株式会社は、「石見銀山遺跡」を中心とした地域において、環境保全・観光振興及び地域の発展を目指すことを目的とした業務提携を行い、4月25日(土)よりイオンの電子マネー「WAON」に石見銀山遺跡をデザインした「石見銀山WAON」が発行されました。



遺跡と自然環境との共生を進めている大田市観光協会と国内外で植樹活動など様々な環境保全活動を推進しているイオン株式会社が、環境保全というテーマで一致したことを契機に進められ、「石見銀山WAON」の誕生となりました。

このカードによる収益の一部は、石見銀山基金に寄付され、石見銀山遺跡の保全・活用などの活動に役立てられます。

「石見銀山WAON」カードは、中国地方のジャスコ・サティ、全国のジャスコ

または、大田市観光協会、石見銀山世界遺産センターで購入することができます。「WAON」カードとは、イオン、ジャスコ、マイカル、マックスバリュ、ミニストップで使える電子マネーです。

また、石見銀山遺跡地内の有料施設等でもこのカードが利用でき、割引料金で有料施設に入場いただけます。

問い合わせ

大田市観光協会
0854-89-9090



石見銀山WAONのラッピングをしたベロタクシー

石見銀山遺跡 仙ノ山遊歩道が完成



新しく完成した仙ノ山展望台

石見銀山遺跡（大森町）の観光は、大森代官所跡から大森の町並みを通り、龍源寺間歩までが主要な観光ルートとなっていますが、昨年4月からは石見銀山のなかでも最大級といわれる大久保間歩の内部が見学できるツアーも実施されています。

これらに加え、石見銀山観光の新しいルートとして、仙ノ山に大森の町並みや日本海、三瓶山まで一望でき

る展望台を整備し、仙ノ山に点在する間歩などの遺跡を楽しんでいただけるような遊歩道が完成しました。

ここは主に山歩きなどを好まれる方向きの観光コースで、体力に自身のある方は新たな石見銀山の魅力を発見してみてください。

整備を行ったとはいえ、木々で覆われているところや天候等により足場の悪いところがあります。この遊歩道へは、山歩きができる恰好で、充分お気をつけてお出かけください。



展望台から見た大森の町並み

仙ノ山周辺図



定住推進員を配置しました ～ おおだ定住支援センター ～

定住対策は、大田市にとって大変重要な課題です。市では産業振興や子育て支援などを重点的に取り組み、若者を中心とする人口流出を抑え、都会からのU Iターンを促進していきたいと考えています。

定住促進につなげるためには、U Iターン希望者に、定住施策や住宅情報、求人情報などの情報をできるだけ早く、わかりやすく提供することが大切です。

そこで、4月から定住に関する情報の一元化を図り、迅速に、きめ細かく対応するため、市役所地域政策課内に「おおだ定住支援センター」を設置し、定住推進員を配置しました。

定住推進員の仕事は、①定住希望者等への情報提供・発信、②定住後の相談業務、③住まいとして活用するための空き家調査などです。

定住推進員の森山敏夫さんは、「現在は、既に大田市にU Iターンされた人の大田市での住み心地などの聞き取り調査や、空き家調査などに取り組んでいます。今後は、都市部に出かけての定住相談や、大田の暮らしなどを体感していただく取り組みも必要と考えています。定住促進に少しでもお手伝いができれば」と意気込みを話されています。

ご家族や知り合いに「大田市に帰りたい」など、定住に関心がある人がおられましたら、ぜひ、ご連絡ください。

問い合わせ おおだ定住支援センター(大田市役所地域政策課内) ☎0854-82-1600 (内線211)

シリーズ新石見銀山⑫

現地を歩きましょう

大田市では平成18年度から遺跡の整備活用事業に本格着手しています。今年3月、仙ノ山(大森町・銀山柵内)一帯の遺跡群を結ぶ見学道が開通したことにより、来訪される皆さまにさまざまな遺跡を歩いていただくことができるようになりました。

先日、整備した見学道のひとつ、清水谷の清水寺跡、選鉱場跡、蔵之丞坑を結ぶルートウォーキングを開催しました(写真)。市内外からのたくさんの参加者と一緒約3時間歩きました。

江戸時代に柵の出入り口のひとつであった清水口番所跡から清水谷の谷筋へ入っていくと、大きな広さの境内地と考えられる平坦地にたどりつきます。ここが、清水寺跡。明治11年に、現在地の銀山川上流の休谷に移転しましたが、銀山が最も栄えた時期、この地に創建されたと推定しています。

驚くことに、この平坦地のつながりには、明治19年、石見銀山で操業を始めた藤田組(現在のDOWAホールディングス株)が明治の中ごろに建設した選鉱場跡も良好に残っています…。と、専門職員の説明を受けながら歩き、庭園の跡、周辺の石垣やトロッコ道跡に目を向けると、あたかも「その時、この場所」にわが身が溶け込んだ錯覚におちいりました。たぶん、現地に足を踏み入れ、五感が活性化されたためでしょう。

石見銀山は、さまざまな遺跡がたくさんありますが、自身の努力だけでは全体像を理解することがなかなか難しいと思います。特に、初めて行く場所へは、可能なかぎり、ガイドさんや地元の精通者の方たちといっしょに歩き体感し、そして楽しんでいただくスタイルが望ましいと思います。



5月30日(土)開催。選鉱場跡での受講風景
今年度、撮影位置から山裾の製錬所跡への見学道整備を予定

※世界遺産センターから、次のURLで最新情報のお知らせをしています
<http://ginzan.city.ohda.lg.jp/>

石見銀山世界遺産センター ☎0854-89-0183

おおだへのイターン家族をご紹介します

愛知県より富山町へイターンされた中山大介さん一家、山田良子さん一家です。中山さんは現在40歳。7年前に妻の実家のある富山町に3人の子供たちと共に移住されました。良子さんは大介さんの妹で、お兄さんの勧めで昨年6月に2人の子供たちと引越して来られました。驚くことに、その2ヶ月後の8月にはご両親もこちらに移られ、現在合計10人の大家族で暮らしています。

大介さんは愛知県での会社員時代に、妻の実家へ農繁期のお手伝いに来られ、その時の米作りや棚田の残る自然に惹かれ、イターンを決意されたそうです。住まいは移住された年に新築。その家には120%満足しており、自然環境に恵まれ、都会とは違う地域の方々の人間味溢れた付き合いに大満足とのこと。



左から 良子さん・大介さん・お父さん

大介さんは、森林組合にお勤めで、平日、休日ともに自然を相手に心地良い充実した毎日をご過ごしています。空いた時間には、バンド仲間と語り合ったり、ドラム演奏なども楽しんでいきます。



棚田の草刈中の大介さん

良子さんは2人の子供たちと共に移住されました。都会と違う少人数の学校教育や、富山町の人の温かさ、自然の素晴らしさ、絶景のロケーションに満足のようです。富山町から大田市街地まで車で15分と思ったより不便さを感じないとのこと。

お父さんは現在66歳。元々岐阜県の山間部の生まれなので「生まれ故郷を思い出すようで楽しい。孫の登下校時の送り迎えも楽しみのひとつ」と控えめな笑顔で語っていただきました。

お母さんは64歳。家の前で慣れない畑仕事をされています。大阪生まれの愛知県育ち、根っからの都会人のお母さんにしてみれば、この年齢での田舎暮らしはカルチャーショックだったようです。

大介さんから、何処へ移住するにしろ、人生の冒険のようなものがあるのでワクワクするような好奇心を持つことが肝心であると、イターンを考えている方へのアドバイスをいただきました。

良子さんは、田舎には素晴らしい自然、素晴らしい方々との出会いがあるので、若い人たちにはどんどん移住を考えて欲しい。また、都会にはきつかけさえあれば暮らしを変えてみたいと

考えている人がいるし、山に住んでいる人が山を守っている大切さをもっともらいと沢山の人が知ってもらいたいので、どんどん情報の発信をして欲しいとのこと意見をいただきました。



子供たちと良子さん

取材を終えて

実際に大田市に定住された方の生の声を取り材して、田舎には都会にはない素晴らしい自然や出会いがあることを改めて認識しました。今後も引き続き、多くの方にUイターンの情報を提供していきたいと思えます。

みんな！ 待っとなるでな～

高野 聖 (こうやひじり)



日時 10月15日(木)
 会場 喜多八幡宮、南八幡宮 (大田町)
 獅子舞を先頭^{おのほり}に大幟、負幟、持幟、高野聖、花駕籠、曳き馬などが行列をつくって町を練り歩きます。
 島根県指定無形民俗文化財。
 [問] 大田まちづくりセンター
 ☎0854-82-6240

シッカク踊

期日 10月18日(日)

会場 水上神社 (水上町)

青、茶色の狩衣装に赤だすき、頭には竹製の編み笠に桜の造花を付け、「胴頭」、「びんざさら」、「小ざさら」と呼ばれる各役が6人ずつ左右に分かれ、向かい合って互いに入れ替わり、太鼓やささらを鳴らしながら「シーッ、シーッ、ハイヤー、カコカコ」と合いの手入れて、足で調子を取りながら五穀豊穡を祈って踊りを奉納します。



島根県指定無形民俗文化財。

[問] 水上まちづくりセンター

☎0854-89-0023

2009 三瓶高原クロスカントリー大会

緑のじゅうたんを駆け抜ける高原の風になろう！



参加者募集中！

期日 8月23日(日) 雨天決行
 会場 国立公園三瓶山西の原
 三瓶高原クロスカントリーコース

参加料等

★クロスカントリー (2km, 3km, 5km, 8km)
 一般：3,000円／高校生以下：1,000円

★ウォークラン (1km, 2km)

無料 (当日参加可)

ウォークランは完走を目的とし、タイムはとりません。

参加資格

小学4年生以上で健康な人。ただし、5km、8kmへの出場は自己記録が5kmは35分以内、8kmは50分以内の方に限ります。ウォークランは幼児以上(幼児は保護者同伴)で健康な人なら誰でも参加できます。

申込締切日 平成21年7月17日(金)

申込先 大田市教育委員会内

三瓶高原クロスカントリー大会事務局

☎0854-82-1600 (内線313)

※詳しくはホームページをご覧ください

<http://www.city.ohda.lg.jp/441.html>

「ふるさと納税」ありがとうございました

平成20年7月スタートしました「ふるさと納税(どがなかな大田ふるさと寄附金)」の平成20年度お寄せ頂いた寄附金は次のとおりです。大田市まちづくり推進基金へ積み立てました。

1. 寄附の状況

1) 寄附金総額：3,115千円 2) 寄附者数：51人

2. 寄附金の使途別の状況

寄附金の使途	金額	人数
定住促進	230千円	2人
参画と協働によるまちづくり	240千円	4人
石見銀山のまちづくり	240千円	11人
指定なし(市政一般)	2,405千円	34人



3. 平成21年度充当事業

従前の積立金も含めまちづくり推進基金を40,000千円取り崩し、次の事業に充てました。

1. 定住促進事業 19,000千円
2. 参画と協働によるまちづくり 20,000千円
3. 石見銀山のまちづくり 1,000千円

多くの方から貴重な寄附金をいただきありがとうございました。引き続き「ふるさと大田」へのご声援、ご協力をよろしくお願い致します。

◆問い合わせ◆ 大田市役所地域政策課 (☎0854-82-1600 内線211)

おおだ情報BOX

小笠原流大代田植囃子

日時 7月17日(金) 15時～
会場 大代町
石清水八幡宮をスタートし、大代まちづくりセンターまで町を歩きます。
大田市指定無形民俗文化財。
[問] 大代まちづくりセンター
☎ 0854-85-2204



2009 銀の国夢まつり ～シルバーラッシュを巻き起こせ～

日時 7月19日(日) 10時～16時
会場 仁摩サンドミュージアム
天領太鼓や神楽の勇壮な舞がステージで繰り広げられ、大田市近隣の旨いもんが屋台村で実演販売されます。神楽の面作り体験など子供から大人まで楽しめるイベントです。
[問] 社団法人島根大田青年会議所
☎ 0854-82-2298
<http://www.ohda-jc.jp/>

琴ヶ浜盆踊り

日時 8月13日(木)・14日(金)・15日(土)
各日とも21時頃～
会場 琴ヶ浜(仁摩町)
太鼓の音とお囃子が、夜空に広がり、鳴り砂で有名な琴ヶ浜海岸を会場に優雅な盆踊りが行われます。
大田市指定無形民俗文化財。
[問] 馬路まちづくりセンター
☎ 0854-88-9070



海神楽

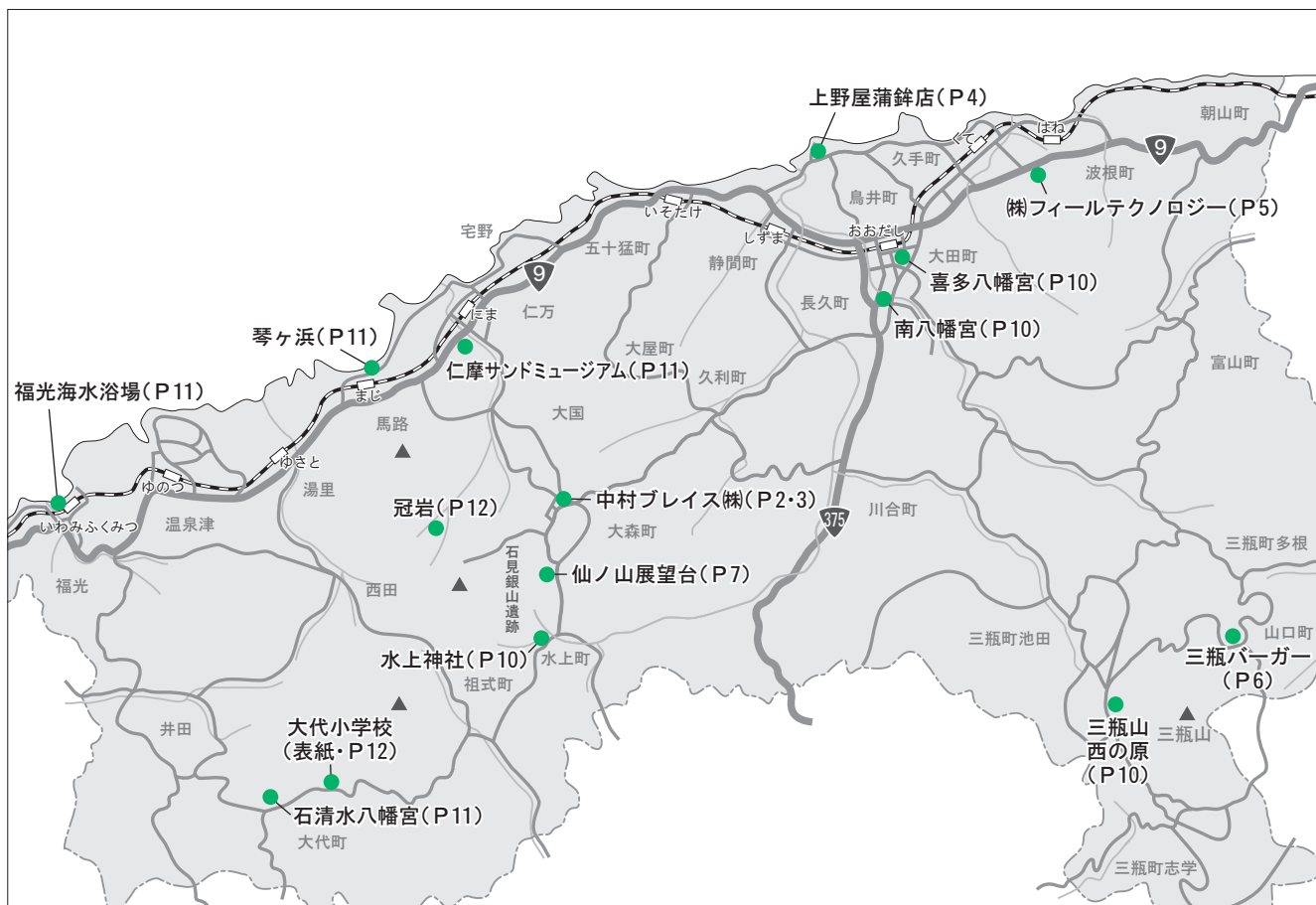
日時 8月16日(日) 17時～22時
会場 福光海水浴場

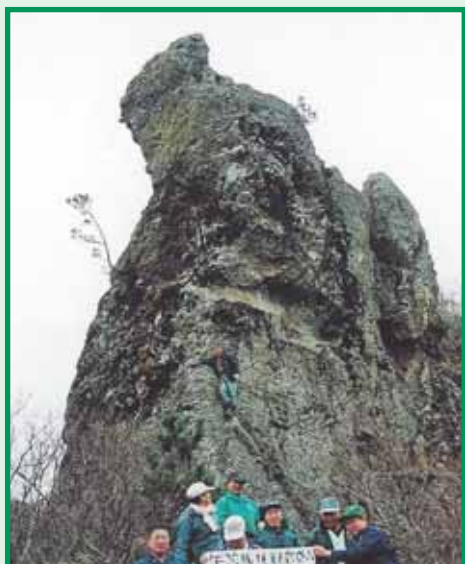
※雨天の場合は会場が変更となる
ことがあります。

今年で5回目となる、京都造形芸術大学と温泉津舞子連中による神楽の共演。

日本海に沈む夕日やかがり火、打ち寄せる潮騒をバックに繰り広げられる舞は必見です。

[問] 大田市役所温泉津支所地域振興課
☎ 0855-65-3111





冠地区のみなさんが登頂
間近で見る奇岩は迫力があります



冠 岩

冠山に向かって車を走らせると、時々冠岩が顔を覗かせます
(4月下旬 冠地区区内で撮影)

仁摩町大国冠地区には、冠山の山頂に高さ約15mの大きな奇岩があります。この岩の形が冠に似ていることから、『冠岩』または『権現岩』と呼び、地元のみなさんは古くからこの岩を崇敬してきました。冠岩に冠神社があったとも言われています。今でも、地元地区のみなさんは、年に2～3回冠岩に登頂し、安全と健康を祈願しています。

〈参考〉仁 摩 町 誌

◆冠岩への行き方◆

冠山ふもとまで、JR仁万駅から大国方面へ車で約20分。ふもとから冠岩まで、所要時間は約1時間ですが、道が険しく、大変わかりにくいいため案内が必要です。冠岩まで行きたい！という方は、仁摩支所地域振興課（☎0854-88-2111）までお問い合わせください。

表紙 大代小学校

昭和23年の両村合併により、大家小学校（明治7年開校）と八代小学校（明治8年開校）が統合し大代小学校となりました。

現在の校舎は平成9年に竣工。今年度は13人の児童が通っています。大代小学校では小規模校の特色を生かし、ふるさと教育に取り組んでいます。



地域の方々の指導で毎年ソバの種蒔き、ソバ打ちをしており、何度も習っている上級生はかなりの腕前です。また、卒業証書には自分で漉いた和紙が使われています。

こうして大代の子供たちは地域と交流を深め見守られて、のびのびと育っています。



今号までの表紙は小学校の旧校舎を取り上げていましたが、今回の大代小学校で市内全ての小学校をご紹介しました。次号からは、新しい企画をお届けする予定です。ただいま編集委員で検討中！お楽しみに！！

この情報誌は定住促進を目的に発行しています。

発行 / 大田市役所総務部地域政策課 TEL:0854-82-1600 FAX:0854-82-5885

〒694-0064 島根県大田市大田町大田口1111番地 E-mail:o-tiiki@iwamigin.jp http://www.city.ohda.lg.jp/
おおだの定住サイト「おおだの未来検索サイト どがどが」 http://www.teiju-ohda.jp/

どがどが 検索